

第 I 回日本 DCD 学会 学術集会
(ウェブサイト用抜粋記録)

学会テーマ 発達性協調運動障害の子どもたちの笑顔のために
～日本の神経発達障害支援の新しいステージへ～

会期 2017 年 4 月 16 日 (日曜日)

会場 兵庫県立総合リハビリテーションセンター

大会長 中井 昭夫 (兵庫県立総合リハビリテーションセンター)

主催 日本 DCD 学会

大会趣旨

日本では、「不器用」といわれる、「協調運動 (Coordination)」の発達に課題のある子どもたちへの支援が諸外国と比べ遅れていましたが、ようやく、さまざまな現場で、神経発達障害のひとつである発達性協調運動障害 (Developmental Coordination Disorder ; DCD) という視点から子どもたちを理解し、支援していくことの重要性が知られるようになってきています。

また、自閉症スペクトラム障害 (ASD)、注意欠如・多動性障害 (AD/HD)、限局性学習障害 (SLD) などの神経発達障害に協調運動の問題、すなわち DCD のある例が多いことは臨床的によく知られています。従来、「協調運動」は身体の問題であり、神経発達障害の単なる併存状態と思われがちでしたが、近年の脳機能イメージング研究や構成論的アプローチなど様々な学際的研究から、胎児期を含めた協調運動や感覚など「身体性」と環境との相互作用が社会性など高次脳機能の発達、そしてその障害としての神経発達障害の進展に重要な役割を果たしている事が強く示唆されてきています。

日本 DCD 学会は、DCD について医学、脳科学、教育学、心理学、社会学等を含めた学際的な視点から研究を推進し、医療・療育、保育・教育、支援、啓発を充実すべく設立された新しい学会です。その記念すべき第 1 回の日本 DCD 学会をメインテーマを「発達性協調運動障害の子どもたちの笑顔のために～日本の神経発達障害支援の新しいステージへ～」として、2017 年 4 月 16 日 (日) に神戸市にて開催いたします。日本の DCD 研究のパイオニアの一人である宮原資英先生をニュージーランドからお招きし、特別招待講演を行なっていただきます。また、2 つの魅力的なシンポジウムを企画するとともに、前日の 15 日 (土) には、プレコングレスとして、ADOS-2 日本語版導入ワークショップを開催いたします。

DCD や神経発達障害にご関心のある皆様に多数ご参加いただけましたら幸いです。

第 1 回日本 DCD 学会学術集会大会長
中井 昭夫 (兵庫県立総合リハビリテーションセンター)

大会プログラム概要

大会長講演

中井 昭夫（兵庫県立総合リハビリテーションセンター）

特別招待講演

宮原 資英（University of Otago）

シンポジウム I

日本の DCD 研究最前線から

シンポジウム II

当事者の望む支援、つなげる支援、つながる支援とは？

シンポジスト

笹森 理絵（当事者）

岩永 竜一郎（長崎大学）

澤江 幸則（筑波大学）

第 I 回日本 DCD 学会学術集会 実行委員組織

大会長 中井 昭夫（兵庫県立総合リハビリテーションセンター）